

大学等における修学の支援に関する  
法律第7条第1項の確認に係る申請書  
(静岡デザイン専門学校)

学校法人静岡理工科大学

## 機関要件確認申請総括表(2021年度)

### 【提出日】

2021/6/29
-----------

### 【設置者】

設置者の名称	備考
学校法人 静岡理工科大学	

### 【設置する専門学校(静岡県内)】

区分	機関要件 確認申請		備考(学校コードは必ず記入すること)
	新規	更新	
静岡産業技術専門学校	無	あり	H122310000223
沼津情報・ビジネス専門学校	無	あり	H122310000018
浜松未来総合専門学校	無	あり	H122310000606
静岡デザイン専門学校	無	あり	H122310000241
静岡インターナショナル・エア・リゾート 専門学校	無	あり	H122310000401
専門学校 浜松デザインカレッジ	無	あり	H122310000777

(注1) 提出日現在の情報を黄色セルに記入願います。

(注2) 機関要件確認申請欄には、「あり」又は「無」(予定を含む。)を記入願います。

(注3) 設置する大学等について、学生募集停止した大学等であって修業年限を超えて在籍する  
学生等のみ在籍する等の特殊事情がある場合は、備考欄にその旨記入願います。

### Ⅲ 機関要件の確認用チェックリスト

学校名	静岡デザイン専門学校
担当者	大場 厚始
電話番号	054-252-1766

#### 【形式審査チェックリスト】

##### 1. 様式第1号(総括表・添付書類)

- 申請の日付、申請者に関する情報のすべての項目について記載があるか。
- 「以下の事項を必ず確認の上、すべての口にレ点(☑)を付けて下さい。」のすべてのチェックボックスにチェックが付されているか。
- 各様式の担当者名・連絡先が記載されているか。
- (添付書類)すべての添付書類が提出されているか。ただし、(2)の機関要件については、設置者の法人類型に応じて、①又は②のいずれかのみが提出されることに注意すること。
- 《私立学校のみ》(添付書類)「経営要件を満たすことを示す資料」において、Ⅰ～Ⅱの表のすべての欄に数値が記載されているか。  
 なお、
  - ・学校法人以外の設置者の場合は、Ⅰの「経常収入(A)」及び「経常支出(B)」が記載されないこと
  - ・新設校の場合は、その設置年度に応じて、Ⅰ及びⅡの一部の年度が記載されないことに注意すること
- 《私立学校のみ》(添付書類)申請者が学校法人の場合は「事業活動収支計算書」及び「貸借対照表」が添付されているか。申請者が学校法人以外の場合は「損益計算書」及び「貸借対照表」が添付されているか。
- (添付書類)「確認申請を行う年度において設置している学部等(学科)の一覧」において、すべての学部(課程)・学科・認定専攻科が記載されているか。また、募集停止や完成年度到達前の学部等である場合は、その旨が記載されているか。併せて、「学生募集停止した学部等であって、修業年限を超えて在籍する学生等のみが在籍する学部等」など、支援対象者が在籍できない学部等については、その旨が付記されているか。

## 2. 様式第2号の1【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

- 「1.実務経験のある教員等による授業科目の数」の表において、添付書類の「確認申請を行う年度において設置している学部等の一覧」と照合して、適切な「学部名(課程名)」及び「学科名」の記載があるか。また、夜間・通信制の学部・学科の場合、「夜」又は「通信」に「○」印が付されているか。
- 「実務経験のある教員等による授業科目の単位数(又は授業時数)」及び「省令で定める基準単位数(又は授業時数)」の数値が記載されているか。
- 「配置困難」の欄に「※」印が付されている学部(課程)・学科については、「3.要件を満たすことが困難である学部等(学科)」の表に、困難である理由が記載されているか。口「2.実務経験のある教員等による授業科目の一覧表の公表方法」が記載されているか。
- (添付書類)「実務経験のある教員等による授業科目の一覧表《省令で定める単位数等の基準数相当分》」において、学部等ごとに「実務経験のある教員等による授業科目」の単位数(又は授業時数)の合計数が明示されているか。

### 3-1. 様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】(学校法人又は準学校法人)

- すべての項目について記載があるか。
- (添付書類)「理事名簿」において、どの理事が学外者であるか明示されているか。

### 3-2. 様式第2号の2-② (設置者が学校法人又は準学校法人以外:一社、一財、個人等)

#### 【(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

- すべての項目について記載があるか。
- (添付書類)「構成員名簿」において、どの構成員が外部人材であるか明示されているか。

## 4. 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

- すべての項目について記載があるか。
- (添付書類)すべての学部等について、「客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料」(様式自由)が添付されているか。

## 5. 様式第2号の4【(4)財務・経営情報の公表】

- 「1.財務諸表等」について、設置者の法人類型ごとに作成すべき書類の公表方法が記載されているか。(法人類型ごとに公表を要する書類については、別添資料1参照)
- 「2.」以降のすべての項目について記載があるか。ただし、任意記載事項については、記載されていなくても差し支えない。

## 【内容審査チェックリスト】

### 1. 様式第2号の1【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

- 「1.実務経験のある教員等による授業科目の数」の表において、すべての学部(課程)・学科等について、申請書の「実務経験のある教員等による授業科目の単位数(又は授業時数)」の数値と、添付書類の「実務経験のある教員等による授業科目の一覧表《省令で定める単位数等の基準数相当分》」に記載された単位数(又は授業時数)の合計数を比較して、申請書の数値が添付書類の数値以上となっているか。
- すべての学部(課程)・学科等について、「省令で定める基準単位数(又は授業時数)」の数値が、別添資料2に基づき適切に記載されているか。
- すべての学部(課程)・学科等について、「実務経験のある教員等による授業科目の単位数(又は授業時数)」の数値(a)が、「省令で定める基準単位数(又は授業時数)」の数値(B)以上であるか(a>Bであれば可)。
- (添付書類)授業計画(シラバス)において「実務経験のある教員等による授業科目」であることが記載されているか。
- 「2.実務経験のある教員等による授業科目の一覧表の公表方法」の欄に、ホームページアドレスが記載されている場合は、当該ホームページに、当該年度の「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表が掲載されているか。
- 「1.実務経験のある教員等による授業科目の数」の表の「配置困難」の欄に「※」印が付されている学部等について、「3.要件を満たすことが困難である学部等」の表に、学問分野の特性等により要件を満たすことが困難であることの合理的な理由が記載されているか。

### 2-1. 様式第2号の2-①(2)①学外者である理事の複数配置【(学校法人又は準学校法人)

- 「1.理事(役員)名簿の公表方法」の欄に、ホームページアドレスが記載されている場合は、当該ホームページにおいて、理事名簿(全員の氏名が記載されているものに限る。)が掲載されているか。
- 「2.学外者である理事の一覧表」に、2名以上分の記載があるか。

### 2-2. 様式第2号の2-② (設置者が学校法人又は準学校法人以外:一社、一財、個人等)

#### 【(2)-2外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

- 「1.大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織」について、「役割」の欄に、当該組織の審議事項や意見の活用方法に関する記載があるか。
- (添付書類)外部の意見を反映する組織に関する規程において、以下の事項が定められているか。
  - ・審議事項(教育課程、学生の進路指導学校評価など)
  - ・構成員の定数(複数であることが必要)
  - ・構成員の選任(学校長又は理事長が選任を行うことが必要)
- 「2. 外部人材である構成員の一覧表」の欄に、2名以上分の記載があるか。

### 3. 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

- ☑ 各項目の概要について、記載要領で示した内容の記載があるか。
- ☑ 「1.」「3.」「4.」の各項目の「公表方法」の欄に、ホームページアドレスが記載されている場合は、当該ホームページにおいて、それぞれ、確認申請年度の授業計画(シラバス)・客観的指標(GPA等)・卒業認定方針が掲載されているか。
- ☑ (添付書類)授業計画(シラバス)において、以下の事項について記載があるか。
  - ・授業の方法(講義、演習、実験、実習、実技等の別)
  - ・授業の内容(授業科目の概要)
  - ・年間の授業の計画(授業の回数やスケジュール)
  - ・到達目標
  - ・成績評価の方法・基準
- ☑ (添付書類)「客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料」において、下位4分の1の範囲を判別できるか。

### 4. 様式第2号の4【(4)財務・経営情報の公表】

- ☑ 「1.財務諸表等」の「公表方法」の欄に、ホームページアドレスが記載されている場合は、当該ホームページに、前事業年度に係る財務諸表等が掲載されているか。
- ☑ 「教育活動に係る情報」について、記載された数値や内容に明らかな誤りがないか。
- ☑ 《専門学校のみ》「教育活動に係る情報」のうち、「①学科等の情報」について、学科等ごとに表が作成されているか。
- ☑ 《専門学校のみ》「b)学校評価」の表の「学校関係者評価の基本方針」の欄に、以下の事項が記載されているか。
  - ・主な評価項目(教育課程、進路指導など)
  - ・評価委員会の構成(委員の定数、委員の選出区分(企業・保護者・卒業生など(当該学校の職員は委員になれないことに注意すること))
  - ・評価結果の活用方法(評価結果を踏まえた改善方策の実施時期や責任者など)
- ☑ 《専門学校のみ》「b)学校評価」の表の「学校関係者評価の委員」の「種別」の欄に、学校職員以外の区分(企業・保護者・卒業生など)が記載されているか。
- ☑ 《専門学校のみ》「学校関係者評価結果の公表方法」の欄に、ホームページアドレスが記載されている場合は、当該ホームページにおいて、最新の評価結果が掲載されているか。

5. 添付書類【(5)設置者の財務状況・大学等の収容定員充足率】

- ☑ 《私立学校のみ》(添付書類)「経営要件を満たすことを示す資料」のⅠ～Ⅱの表の数値について、付属書類や補足資料と照合した結果、以下のとおりとなるか。
  - ・Ⅰ (経常収支差額)の数値については、付属書類の「事業活動収支計算書(又は損益計算書)」で示された金額と一致するか。
  - ・Ⅱ (運用資産－外部負債)の数値については、「運用資産」及び「外部負債」の金額が、付属書類の「貸借対照表」及び補足資料の「運用資産又は外部負債として計上した勘定科目一覧」で示された金額の合計額と一致するか。また、運用資産と外部負債の「差額」が正確に算出されているか。
  - ・Ⅲ (収容定員充足率)の数値については「収容定員」が学則の数値と一致するか。また、収容定員充足率が正確に算出されているか。
- ☑ 《私立学校のみ》(添付書類)「経営要件を満たすことを示す資料」のⅠ～Ⅱの表の数値について、以下のすべてに該当するものでないこと。
  - ・Ⅰ :「差額(A)-(B)」の数値が、すべての年度でマイナス
  - ・Ⅱ :「差額(C)-(D)」の数値が、マイナス
  - ・Ⅲ :「収容定員充足率(F)/(E)」の数値が、すべての年度で8割未満(専門学校については、下表のとおり)

確認申請又は 更新確認申請書の提出年度	直近3年度の収容定員充足率		
	2017年度	2018年度	2019年度
2019年度	6割未満	6割未満	6割未満
2020年度	6割未満	6割未満	6割未満
2021年度	6割未満	6割未満	7割未満
2022年度	6割未満	7割未満	8割未満
2023年度	7割未満	8割未満	8割未満
2024年度	8割未満	8割未満	8割未満

## 目 次

### [申請様式]

1. 様式第1号
2. 様式第1号（添付書類）「経営要件を満たすことを示す資料」
3. 様式第2号の1－②
4. 様式第2号の2－①
5. 様式第2号の3
6. 様式第2号の4－②
7. 様式第2号の4（別紙）

# 1. 様式第1号

静岡県知事 殿

〔設置者の名称〕 学校法人 静岡理工科大学

〔代表者の役職〕 理事長 〔代表者の氏名〕 橋本 新平

大学等における修学の支援に関する法律第 7 条第 1 項の確認に係る申請書

## ○申請者に関する情報

大学等の名称	静岡デザイン専門学校
大学等の種類 (いずれかに○を付すこと)	(大学・短期大学・高等専門学校 <u>専門学校</u> )
大学等の所在地	静岡市葵区鷹匠 2-19-15
学長又は校長の氏名	校長 久保田 香里
設置者の名称	学校法人 静岡理工科大学
設置者の主たる事務所の所在地	静岡市葵区相生町 12 番 18 号
設置者の代表者の氏名	理事長 橋本 新平
申請書を公表する予定のホームページアドレス	<a href="https://www.sdc.ac.jp/school_info/public">https://www.sdc.ac.jp/school_info/public</a>

※ 以下のいずれかの□にレ点 (☑) を付けて下さい。

 確認申請

大学等における修学の支援に関する法律施行規則第 5 条第 1 項に基づき確認申請書を提出します。

 更新確認申請書の提出

大学等における修学の支援に関する法律施行規則第 5 条第 3 項に基づき更新確認申請書を提出します。

※ 以下の事項を必ず確認の上、すべての□にレ点 (☑) を付けて下さい。

 この申請書 (添付書類を含む。) の記載内容は、事実と相違ありません。 確認を受けた大学等は、大学等における修学の支援に関する法律 (以下「大学等修学支援法」という。) に基づき、基準を満たす学生等を減免対象者として認定し、その授業料及び入学金を減免する義務があることを承知していません。 大学等が確認を取り消されたり、確認を辞退した場合も、減免対象者が卒業するまでの間、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。 この申請書に虚偽の記載をするなど、不正な行為をした場合には、確認を取

り消されたり、交付された減免費用の返還を命じられる場合があるとともに、減免対象者が卒業するまでの間、自らが費用を負担して、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。

- 申請する大学等及びその設置者は、大学等修学支援法第7条第2項第3号及び第4号に該当します。

○各様式の担当者名と連絡先一覧

様式番号	所属部署・担当者名	電話番号	電子メールアドレス
第1号	教務・大場厚始	054-252-1766	ohba.atsushi@sist.ac.jp
第2号の1	教務・大場厚始	054-252-1766	ohba.atsushi@sist.ac.jp
第2号の2	法人室・中村綾太	054-200-3333	nakamura.ryouta@sist.ac.jp
第2号の3	教務・大場厚始	054-252-1766	ohba.atsushi@sist.ac.jp
第2号の4	教務・大場厚始	054-252-1766	ohba.atsushi@sist.ac.jp

○添付書類

※ 以下の事項を必ず確認し、必要な書類の□にレ点 (☑) を付けた上で、これらの書類を添付してください。(設置者の法人類型ごとに添付する資料が異なることに注意してください。)

「(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置」関係

- 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表《省令で定める単位数等の基準数相当分》
- 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）《省令で定める単位数等の基準数相当分》

「(2)-①学外者である理事の複数配置」関係

- 《一部の設置者のみ》大学等の設置者の理事（役員）名簿

「(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置」関係

- 《一部の設置者のみ》大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織に関する規程とその構成員の名簿

「(2)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表」関係

- 客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料
- 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）《省令で定める単位数等の基準数相当分》【再掲】

その他

- 《私立学校のみ》経営要件を満たすことを示す資料
- 確認申請を行う年度において設置している学部等の一覧

2. 様式第1号（添付書類）  
「経営要件を満たすことを示す資料」

(添付書類) 経営要件を満たすことを示す資料

学校名	静岡デザイン専門学校
設置者名	学校法人 静岡理工科大学

I 直前3年度の決算の事業活動収支計算書における「経常収支差額」の状況

	経常収入(A)	経常支出(B)	差額(A)-(B)
申請前年度の決算	8,810,415,864円	8,048,505,170円	761,910,691円
申請2年度前の決算	8,276,913,062円	7,651,248,909円	625,664,153円
申請3年度前の決算	7,725,269,466円	7,327,941,642円	397,327,824円

II 直前の決算の貸借対照表における「運用資産-外部負債」の状況

	運用資産(C)	外部負債(D)	差額(C)-(D)
申請前年度の決算	20,625,991,017円	681,623,414円	19,944,367,603円

III 申請校の直近3年度の収容定員充足率の状況

	収容定員(E)	在学生等の数(F)	収容定員充足率 (F)/(E)
今年度(申請年度)	500人	576人	115%
前年度	500人	558人	111%
前々年度	500人	525人	105%

(IIの補足資料)「運用資産」又は「外部負債」として計上した勘定科目一覧

○「運用資産」に計上した勘定科目

勘定科目の 名称	資産の内容	申請前年度の決算に おける金額
		円
		円
		円

○「外部負債」に計上した勘定科目

勘定科目の 名称	負債の内容	申請前年度の決算に おける金額
		円
		円
		円

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

### 3. 様式第2号の1-②

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	静岡デザイン専門学校
設置者名	学校法人 静岡理科大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
専門課程 (服飾・家政)	ファッション ビジネス科	夜・通信	990	160	
	ファッション デザイン科	夜・通信	1620	240	
	ブライダル・ ビューティー科	夜・通信	1140	160	
専門課程 (文化・教養)	グラフィック デザイン科	夜・通信	3120	240	
	プロダクトデザイン科	夜・通信	1560	240	
	インテリアデザイン科	夜・通信	600	240	
	フラワーデザイン科	夜・通信	690	160	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

[https://www.sdc.ac.jp/school\\_info/public](https://www.sdc.ac.jp/school_info/public)

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

#### 4. 様式第2号の2-①

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	静岡デザイン専門学校
設置者名	学校法人 静岡理工科大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人静岡理工科大学のホームページ( <a href="https://sist-net.ac.jp/information/">https://sist-net.ac.jp/information/</a> )にて「役員名簿」を公開
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	物流等関連企業 代表取締役会長	令和元年10月1日～ 令和3年9月30日	学校法人運営についての意見 財務担当
非常勤	食品等関連企業 代表取締役会長	令和元年10月1日～ 令和3年9月30日	学校法人運営についての意見
非常勤	自動車部品等関連企業 代表取締役会長	令和元年10月1日～ 令和3年9月30日	学校法人運営についての意見
非常勤	物流等関連企業 相談役	令和元年10月1日～ 令和3年9月30日	学校法人運営についての意見
非常勤	大学 名誉教授	令和元年10月1日～ 令和3年9月30日	学校法人運営についての意見
非常勤	証券業 代表取締役社長	令和元年10月1日～ 令和3年9月30日	学校法人運営についての意見
非常勤	冷蔵倉庫業 取締役社長	令和元年10月1日～ 令和3年9月30日	学校法人運営についての意見
非常勤	システム関連企業 代表取締役社長	令和元年10月1日～ 令和3年9月30日	学校法人運営についての意見 情報 IR 担当
(備考)			

## 5. 様式第2号の3

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	静岡デザイン専門学校
設置者名	学校法人 静岡理工科大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業計画(シラバス)の作成過程及び公表について</p> <p>12月 ～ 次年度授業計画の策定</p> <p>1月 ～ 担当教員への授業計画(シラバス)作成依頼</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業計画(シラバス)テンプレート配布</li> <li>・授業計画(シラバス)ガイドライン配布</li> </ul> <p>2月 ～ 授業計画(シラバス)回収・チェック</p> <p>3月 ～ 授業計画(シラバス)訂正・公表準備</p> <p>4月 ～ 授業計画(シラバス)公表</p>	
授業計画書の公表方法	<a href="https://www.sdc.ac.jp/school_info/public">https://www.sdc.ac.jp/school_info/public</a>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>各学科の定めるディプロマポリシー(卒業認定/専門士授与の方針)に掲げる資質・能力の習得状況等は、カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)の「成績評価の方法」に掲げる方法に加え、学生生活上の客観的な指導、卒業対象学生に行うアンケート調査の状況、各種資格取得状況・制作した作品のレベルと志望進路状況(専門領域への就職率及び進学率等)から学修成果の達成状況の評価する。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績は、科目ごと4段階評語(優・良・可・不可)、素点(0~100点)による評価で表す。不可及び59点以下は不合格となり単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均を成績評価指標とする。成績証明書は、4段階評語の評語で表示される。

評語	素点	意味	ポイント
優	80~100点	到達目標をほぼ達成している。	4
良	70~79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2
可	60~69点	到達目標の最低限は満たしている。	1
不可	0~59点	到達目標を充足していない。	0

$$\text{成績評価指数} = ((4 \times \text{優の科目数}) + (2 \times \text{良の科目数}) + (1 \times \text{可の科目数})) \div \text{科目数}$$

客観的な指標の  
算出方法の公表方法

[https://www.sdc.ac.jp/school\\_info/public](https://www.sdc.ac.jp/school_info/public)

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本校を卒業する人材は、学則にある「教育基本法に則り、学校教育法に従い、服装並びにデザイン業務に関する知識・技能を授けるとともに一般教養を高め、有能な職業人、社会人を育成する」ことが教育目的であり、学科ごとの専門教育を学習し、以下の能力等を有している。

■専門分野についての基本的な技術・知識を有し、社会のその分野の中で活用することができる。

■キャリア教育等の基本的なスキルを身につけている。

■社会人基礎力を身につけている。

また、以下の条件を満たしていなければならない。

■必須科目の成績評価に不可が無いこと。

■年間出席時限数が年間消化時間の85%以上であること。

■学納金が未納でないこと。

本校のディプロマポリシーに基づき、各学科のディプロマポリシーを設定する。

全校共通および各学科のディプロマポリシーの定める基準に達しており、全ての科目を修得(不可科目がないこと)した者に卒業を認定している。

卒業の認定に関する  
方針の公表方法

[https://www.sdc.ac.jp/school\\_info/public](https://www.sdc.ac.jp/school_info/public)

6. 様式第2号の4-②

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	静岡デザイン専門学校
設置者名	学校法人 静岡理工科大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://sist-net.ac.jp/information/">https://sist-net.ac.jp/information/</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://sist-net.ac.jp/information/">https://sist-net.ac.jp/information/</a>
財産目録	<a href="https://sist-net.ac.jp/information/">https://sist-net.ac.jp/information/</a>
事業報告書	<a href="https://sist-net.ac.jp/information/">https://sist-net.ac.jp/information/</a>
監事による監査報告（書）	<a href="https://sist-net.ac.jp/information/">https://sist-net.ac.jp/information/</a>

## 2. 教育活動に係る情報

### ①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
服飾・家政		専門課程	ファッションビジネス科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,920 単位時間	390 単位時間	780 単位時間	750 単位時間		
			1,920 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		41人	0人	4人	23人	27人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)			
(概要) 授業計画(シラバス)の作成過程及び公表について 12月 ～ 次年度授業計画の策定 1月 ～ 担当教員への授業計画(シラバス)作成依頼 ・授業計画(シラバス)テンプレート配布 ・授業計画(シラバス)ガイドライン配布 2月 ～ 授業計画(シラバス)回収・チェック 3月 ～ 授業計画(シラバス)訂正・公表準備 4月 ～ 授業計画(シラバス)公表			
成績評価の基準・方法			
(概要) 成績表は、科目ごと4段階評語(優・良・可・不可)、素点(0～100点)による評価で表す。不可および59点以下は不合格となり、単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均値を成績評価指標とする。 成績証明書は、4段階評価の評語で表示される。			
評語	素点	意味	ポイント
優	80～100点	到達目標をほぼ達成している。	4
良	70～79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2
可	60～69点	到達目標の最低限は満たしている。	1
不可	0～59点	到達目標を充足していない。	0
成績評価指数= ((4×優の科目数) + (2×良の科目数) + (1×可の科目数)) ÷ 科目数			
卒業・進級の認定基準			
(概要) 本校を卒業する人材は、学則にある「教育基本法に則り、学校教育法に従い、服装並びにデザイン業務に関する知識・技能を授けるとともに一般教養を高め、有能な職業人、社会人を育成する」ことが教育目的であり、学科ごとの専門教育を学習し、以下の能力等を有している。 ■専門分野についての基本的な技術・知識を有し、社会のその分野の中で活用することができる。 ■キャリア教育等の基本的なスキルを身につけている。 ■社会人基礎力を身につけている。 また、以下の条件を満たしていなければならない。			

<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 必須科目の成績評価に不可が無いこと。</li> <li>■ 年間出席時限数が年間消化時間の 85%以上であること。</li> <li>■ 学納金が未納でないこと。</li> </ul> <p>本校のディプロマポリシーに基づき、各学科のディプロマポリシーを設定する。</p>
学修支援等
(概要) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個別指導の実施</li> <li>・ 補習、再テスト等の実施による習熟度向上対策の実施</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
27 人 (100%)	0 人 ( 0%)	25 人 ( 92.6%)	2 人 ( 7.4%)
(主な就職、業界等) ファッションアドバイザー、アパレル店舗マネージャー、店舗スタッフ、バイヤー、ファッションコーディネーター、プレス、スタイリスト、マーチャンダイザー等			
(就職指導内容) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ それぞれの適正を見極め、企業とのマッチングを行う。</li> <li>・ 身だしなみ講座実施、面接指導、履歴書指導、インターンシップのフォロー</li> </ul>			
(主な学修成果（資格・検定等）) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ファッションビジネス検定 3 級 ・ 販売士検定 ・ AFT 色彩能力検定 3 級</li> <li>・ パーソナルカラー検定 3 級 ・ 商業ラッピング検定 3 級</li> </ul>			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
45 人	1 人	2.2%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 休んだ当日に本人もしくは自宅に連絡し、状況を把握する。</li> <li>・ 日頃からの声掛け、定期的な面談を行い、学生の変化の早期発見に努めている。</li> </ul>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
服飾・家政		専門課程	ファッションデザイン科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	3,030 単位時間	270 単位時間	750 単位時間	2,010 単位時間		
			3,030 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		58人	0人	4人	21人	25人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)			
(概要) 授業計画(シラバス)の作成過程及び公表について 12月～次年度授業計画の策定 1月～担当教員への授業計画(シラバス)作成依頼 ・授業計画(シラバス)テンプレート配布 ・授業計画(シラバス)ガイドライン配布 2月～授業計画(シラバス)回収・チェック 3月～授業計画(シラバス)訂正・公表準備 4月～授業計画(シラバス)公表			
成績評価の基準・方法			
(概要) 成績表は、科目ごと4段階評語(優・良・可・不可)、素点(0～100点)による評価で表す。不可および59点以下は不合格となり、単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均値を成績評価指標とする。 成績証明書は、4段階評価の評語で表示される。			
評語	素点	意味	ポイント
優	80～100点	到達目標をほぼ達成している。	4
良	70～79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2
可	60～69点	到達目標の最低限は満たしている。	1
不可	0～59点	到達目標を充足していない。	0
成績評価指数= (4×優の科目数) + (2×良の科目数) + (1×可の科目数) ÷ 科目数			
卒業・進級の認定基準			
(概要) 本校を卒業する人材は、学則にある「教育基本法に則り、学校教育法に従い、服装並びにデザイン業務に関する知識・技能を授けるとともに一般教養を高め、有能な職業人、社会人を育成する」ことが教育目的であり、学科ごとの専門教育を学習し、以下の能力等を有している。 ■専門分野についての基本的な技術・知識を有し、社会のその分野の中で活用することができる。 ■キャリア教育等の基本的なスキルを身につけている。 ■社会人基礎力を身につけている。 また、以下の条件を満たしていなければならない。 ■必須科目の成績評価に不可が無いこと。			

<p>■年間出席時限数が年間消化時間の85%以上であること。</p> <p>■学納金が未納でないこと。</p> <p>本校のディプロマポリシーに基づき、各学科のディプロマポリシーを設定する。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別指導の実施</li> <li>・補習、再テスト等の実施による習熟度向上対策の実施</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
11人 (100%)	0人 (0%)	10人 (90.9%)	1人 (9.1%)
(主な就職、業界等) ファッションデザイナー、パタンナー、マーチャンダイザー、アパレルプランナー、ファッションリフォーマー、衣装デザイナー、服飾縫製、裁断士等			
(就職指導内容) ・それぞれの適正を見極め、企業とのマッチングを行う。 ・身だしなみ講座実施、面接指導、履歴書指導、インターンシップのフォロー			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・パターンメイキング技術検定2級、3級 ・洋裁技術検定 ・AFT色彩能力検定2級、3級 ・専修学校専門課程准教員認定			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
49人	5人	10.2%
(中途退学の主な理由) 進路変更、体調不良		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・休んだ当日に本人もしくは自宅に連絡し、状況を把握する。 ・日頃からの声掛け、定期的な面談を行い、学生の変化の早期発見に努めている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
服飾・家政		専門課程	ブライダル・ビューティー科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,980 単位時間	150 単位時間	810 単位時間	1,020 単位時間		
			1,980 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人	82人	0人	4人	24人	28人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)																				
<p>(概要)</p> <p>授業計画(シラバス)の作成過程及び公表について</p> <p>12月 ～ 次年度授業計画の策定</p> <p>1月 ～ 担当教員への授業計画(シラバス)作成依頼</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業計画(シラバス)テンプレート配布</li> <li>・ 授業計画(シラバス)ガイドライン配布</li> </ul> <p>2月 ～ 授業計画(シラバス)回収・チェック</p> <p>3月 ～ 授業計画(シラバス)訂正・公表準備</p> <p>4月 ～ 授業計画(シラバス)公表</p>																				
成績評価の基準・方法																				
<p>(概要)</p> <p>成績表は、科目ごと4段階評語(優・良・可・不可)、素点(0～100点)による評価で表す。不可および59点以下は不合格となり、単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均値を成績評価指標とする。</p> <p>成績証明書は、4段階評価の評語で表示される。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評語</th> <th>素点</th> <th>意味</th> <th>ポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優</td> <td>80～100点</td> <td>到達目標をほぼ達成している。</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>70～79点</td> <td>不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>60～69点</td> <td>到達目標の最低限は満たしている。</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>0～59点</td> <td>到達目標を充足していない。</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>成績評価指数= (4×優の科目数) + (2×良の科目数) + (1×可の科目数) ÷ 科目数</p>	評語	素点	意味	ポイント	優	80～100点	到達目標をほぼ達成している。	4	良	70～79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2	可	60～69点	到達目標の最低限は満たしている。	1	不可	0～59点	到達目標を充足していない。	0
評語	素点	意味	ポイント																	
優	80～100点	到達目標をほぼ達成している。	4																	
良	70～79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2																	
可	60～69点	到達目標の最低限は満たしている。	1																	
不可	0～59点	到達目標を充足していない。	0																	
卒業・進級の認定基準																				
<p>(概要)</p> <p>本校を卒業する人材は、学則にある「教育基本法に則り、学校教育法に従い、服装並びにデザイン業務に関する知識・技能を授けるとともに一般教養を高め、有能な職業人、社会人を育成する」ことが教育目的であり、学科ごとの専門教育を学習し、以下の能力等を有している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 専門分野についての基本的な技術・知識を有し、社会のその分野の中で活用することができる。</li> <li>■ キャリア教育等の基本的なスキルを身につけている。</li> <li>■ 社会人基礎力を身につけている。</li> </ul> <p>また、以下の条件を満たしていなければならない。</p>																				

<p>■必須科目の成績評価に不可が無いこと。</p> <p>■年間出席時限数が年間消化時間の85%以上であること。</p> <p>■学納金が未納でないこと。</p> <p>本校のディプロマポリシーに基づき、各学科のディプロマポリシーを設定する。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別指導の実施</li> <li>・補習、再テスト等の実施による習熟度向上対策の実施</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
39人 (100%)	0人 (0%)	35人 (89.7%)	4人 (10.3%)
(主な就職、業界等) ブライダルプランナー、エステティシャン、ビューティーアドバイザー、ネイリスト、メイクアップアーティスト、メイクアドバイザー、セレモニースタッフ等			
(就職指導内容) ・それぞれの適正を見極め、企業とのマッチングを行う。 ・身だしなみ講座実施、面接指導、履歴書指導、インターンシップのフォロー			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・ブライダルファッションプランナー検定 ・パーソナルカラー検定 ・AFT色彩能力検定2級、3級 ・アロマセラピー検定2級 ・ネイリスト技能検定2級、3級			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
86人	4人	4.7%
(中途退学の主な理由) 進路変更、体調不良、出産のため		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・休んだ当日に本人もしくは自宅に連絡し、状況を把握する。 ・日頃からの声掛け、定期的な面談を行い、学生の変化の早期発見に努めている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	グラフィックデザイン科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	3,030 単位時間	390 単位時間	2,340 単位時間	300 単位時間		
			3,030 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
180人		251人	1人	5人	45人	50人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）																							
<p>(概要)</p> <p>授業計画(シラバス)の作成過程及び公表について</p> <p>12月～次年度授業計画の策定</p> <p>1月～担当教員への授業計画(シラバス)作成依頼</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業計画(シラバス)テンプレート配布</li> <li>・授業計画(シラバス)ガイドライン配布</li> </ul> <p>2月～授業計画(シラバス)回収・チェック</p> <p>3月～授業計画(シラバス)訂正・公表準備</p> <p>4月～授業計画(シラバス)公表</p>																							
成績評価の基準・方法																							
<p>(概要)</p> <p>成績表は、科目ごと4段階評語(優・良・可・不可)、素点(0～100点)による評価で表す。不可および59点以下は不合格となり、単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均値を成績評価指標とする。</p> <p>成績証明書は、4段階評価の評語で表示される。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>評語</th> <th>素点</th> <th>意味</th> <th>ポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優</td> <td>80～100点</td> <td>到達目標をほぼ達成している。</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>70～79点</td> <td>不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>60～69点</td> <td>到達目標の最低限は満たしている。</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>0～59点</td> <td>到達目標を充足していない。</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>成績評価指数 = ( (4×優の科目数) + (2×良の科目数) + (1×可の科目数) ) ÷ 科目数</p>				評語	素点	意味	ポイント	優	80～100点	到達目標をほぼ達成している。	4	良	70～79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2	可	60～69点	到達目標の最低限は満たしている。	1	不可	0～59点	到達目標を充足していない。	0
評語	素点	意味	ポイント																				
優	80～100点	到達目標をほぼ達成している。	4																				
良	70～79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2																				
可	60～69点	到達目標の最低限は満たしている。	1																				
不可	0～59点	到達目標を充足していない。	0																				
卒業・進級の認定基準																							
<p>(概要)</p> <p>本校を卒業する人材は、学則にある「教育基本法に則り、学校教育法に従い、服装並びにデザイン業務に関する知識・技能を授けるとともに一般教養を高め、有能な職業人、社会人を育成する」ことが教育目的であり、学科ごとの専門教育を学習し、以下の能力等を有している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■専門分野についての基本的な技術・知識を有し、社会のその分野の中で活用することができる。</li> <li>■キャリア教育等の基本的なスキルを身につけている。</li> <li>■社会人基礎力を身につけている。</li> </ul> <p>また、以下の条件を満たしていなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■必須科目の成績評価に不可が無いこと。</li> </ul>																							

<p>■年間出席時限数が年間消化時間の85%以上であること。</p> <p>■学納金が未納でないこと。</p> <p>本校のディプロマポリシーに基づき、各学科のディプロマポリシーを設定する。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別指導の実施</li> <li>・補習、再テスト等の実施による習熟度向上対策の実施</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
76人 (100%)	0人 (0%)	67人 (88.2%)	9人 (11.8%)
(主な就職、業界等) 広告関連企業、Web制作会社、印刷会社、デザイン事務所、デザイン制作会社、写真スタジオ、映像制作会社			
(就職指導内容) ・それぞれの適正を見極め、企業とのマッチングを行う。 ・身だしなみ講座実施、面接指導、履歴書指導、インターンシップのフォロー			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・AFT色彩検定2級、3級 ・ビジネスマナー検定3級 ・情報処理技能検定2級、3級 ・DTP検定 ・漫画能力検定			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
235人	18人	7.7%
(中途退学の主な理由) 進路変更、体調不良、精神的な体調不良、学業不振、経済的な理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・休んだ当日に本人もしくは自宅に連絡し、状況を把握する。 ・日頃からの声掛け、定期的な面談を行い、学生の変化の早期発見に努めている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	プロダクトデザイン科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,940 単位時間	330 単位時間	2,520 単位時間	90 単位時間		
			2,940 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人	53人	0人	4人	34人	38人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)																				
<p>(概要)</p> <p>授業計画(シラバス)の作成過程及び公表について</p> <p>12月 ～ 次年度授業計画の策定</p> <p>1月 ～ 担当教員への授業計画(シラバス)作成依頼</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業計画(シラバス)テンプレート配布</li> <li>・ 授業計画(シラバス)ガイドライン配布</li> </ul> <p>2月 ～ 授業計画(シラバス)回収・チェック</p> <p>3月 ～ 授業計画(シラバス)訂正・公表準備</p> <p>4月 ～ 授業計画(シラバス)公表</p>																				
成績評価の基準・方法																				
<p>(概要)</p> <p>成績表は、科目ごと4段階評語(優・良・可・不可)、素点(0～100点)による評価で表す。不可および59点以下は不合格となり、単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均値を成績評価指標とする。</p> <p>成績証明書は、4段階評価の評語で表示される。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評語</th> <th>素点</th> <th>意味</th> <th>ポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優</td> <td>80～100点</td> <td>到達目標をほぼ達成している。</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>70～79点</td> <td>不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>60～69点</td> <td>到達目標の最低限は満たしている。</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>0～59点</td> <td>到達目標を充足していない。</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>成績評価指数= (4×優の科目数) + (2×良の科目数) + (1×可の科目数) ÷ 科目数</p>	評語	素点	意味	ポイント	優	80～100点	到達目標をほぼ達成している。	4	良	70～79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2	可	60～69点	到達目標の最低限は満たしている。	1	不可	0～59点	到達目標を充足していない。	0
評語	素点	意味	ポイント																	
優	80～100点	到達目標をほぼ達成している。	4																	
良	70～79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2																	
可	60～69点	到達目標の最低限は満たしている。	1																	
不可	0～59点	到達目標を充足していない。	0																	
卒業・進級の認定基準																				
<p>(概要)</p> <p>本校を卒業する人材は、学則にある「教育基本法に則り、学校教育法に従い、服装並びにデザイン業務に関する知識・技能を授けるとともに一般教養を高め、有能な職業人、社会人を育成する」ことが教育目的であり、学科ごとの専門教育を学習し、以下の能力等を有している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 専門分野についての基本的な技術・知識を有し、社会のその分野の中で活用することができる。</li> <li>■ キャリア教育等の基本的なスキルを身につけている。</li> <li>■ 社会人基礎力を身につけている。</li> </ul> <p>また、以下の条件を満たしていなければならない。</p>																				

<p>■必須科目の成績評価に不可が無いこと。</p> <p>■年間出席時限数が年間消化時間の85%以上であること。</p> <p>■学納金が未納でないこと。</p> <p>本校のディプロマポリシーに基づき、各学科のディプロマポリシーを設定する。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別指導の実施</li> <li>・補習、再テスト等の実施による習熟度向上対策の実施</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
22人 (100%)	0人 (0%)	20人 (90.9%)	2人 (9.1%)
(主な就職、業界等) プロダクトデザイナー、家具デザイナー、雑貨デザイナー、ジュエリーデザイナー、家具企画販売、CADオペレーター、家具職人、伝統工芸職人等			
(就職指導内容) ・それぞれの適正を見極め、企業とのマッチングを行う。 ・身だしなみ講座実施、面接指導、履歴書指導、インターンシップのフォロー			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・AFT 色彩検定 2 級、3 級    ・ビジネス実務マナー検定 3 級 ・商業ラッピング検定 3 級    ・レタリング検定 2 級、3 級			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
60人	0人	0.0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・休んだ当日に本人もしくは自宅に連絡し、状況を把握する。 ・日頃からの声掛け、定期的な面談を行い、学生の変化の早期発見に努めている。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	専門課程	インテリアデザイン科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,940 単位時間	210 単位時間	2,730 単位時間			
			2,940 単位時間 / 単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人	54人	1人	3人	25人	28人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)																				
<p>(概要)</p> <p>授業計画(シラバス)の作成過程及び公表について</p> <p>12月～次年度授業計画の策定</p> <p>1月～担当教員への授業計画(シラバス)作成依頼</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業計画(シラバス)テンプレート配布</li> <li>・授業計画(シラバス)ガイドライン配布</li> </ul> <p>2月～授業計画(シラバス)回収・チェック</p> <p>3月～授業計画(シラバス)訂正・公表準備</p> <p>4月～授業計画(シラバス)公表</p>																				
成績評価の基準・方法																				
<p>(概要)</p> <p>成績表は、科目ごと4段階評語(優・良・可・不可)、素点(0～100点)による評価で表す。不可および59点以下は不合格となり、単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均値を成績評価指標とする。</p> <p>成績証明書は、4段階評価の評語で表示される。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評語</th> <th>素点</th> <th>意味</th> <th>ポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優</td> <td>80～100点</td> <td>到達目標をほぼ達成している。</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>70～79点</td> <td>不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>60～69点</td> <td>到達目標の最低限は満たしている。</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>0～59点</td> <td>到達目標を充足していない。</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>成績評価指数= (4×優の科目数) + (2×良の科目数) + (1×可の科目数) ÷ 科目数</p>	評語	素点	意味	ポイント	優	80～100点	到達目標をほぼ達成している。	4	良	70～79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2	可	60～69点	到達目標の最低限は満たしている。	1	不可	0～59点	到達目標を充足していない。	0
評語	素点	意味	ポイント																	
優	80～100点	到達目標をほぼ達成している。	4																	
良	70～79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2																	
可	60～69点	到達目標の最低限は満たしている。	1																	
不可	0～59点	到達目標を充足していない。	0																	
卒業・進級の認定基準																				
<p>(概要)</p> <p>本校を卒業する人材は、学則にある「教育基本法に則り、学校教育法に従い、服装並びにデザイン業務に関する知識・技能を授けるとともに一般教養を高め、有能な職業人、社会人を育成する」ことが教育目的であり、学科ごとの専門教育を学習し、以下の能力等を有している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■専門分野についての基本的な技術・知識を有し、社会のその分野の中で活用することができる。</li> <li>■キャリア教育等の基本的なスキルを身につけている。</li> <li>■社会人基礎力を身につけている。</li> </ul>																				

<p>また、以下の条件を満たしていなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 必須科目の成績評価に不可が無いこと。</li> <li>■ 年間出席時限数が年間消化時間の 85%以上であること。</li> <li>■ 学納金が未納でないこと。</li> </ul> <p>本校のディプロマポリシーに基づき、各学科のディプロマポリシーを設定する。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個別指導の実施</li> <li>・ 補習、再テスト等の実施による習熟度向上対策の実施</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
19 人 (100%)	0 人 (0%)	18 人 (94.7%)	1 人 (5.3%)
(主な就職、業界等) インテリアコーディネーター、インテリアデザイナー、ハウジングアドバイザー、エクステリアデザイナー、ディスプレイデザイナー、住宅・店舗設計施工等			
(就職指導内容) ・ それぞれの適正を見極め、企業とのマッチングを行う。 ・ 身だしなみ講座実施、面接指導、履歴書指導、インターンシップのフォロー			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・ インテリアコーディネーター資格試験 ・ 建築 CAD 検定 3 級 ・ AFT 色彩検定 2 級、3 級 ・ ビジネス実務マナー検定 3 級			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
49 人	2 人	4.1%
(中途退学の主な理由) 経済的な理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・ 休んだ当日に本人もしくは自宅に連絡し、状況を把握する。 ・ 日頃からの声掛け、定期的な面談を行い、学生の変化の早期発見に努めている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
服飾・家政		専門課程	フラワーデザイン 科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総 単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,920 単位時間	450 単位時間	1,350 単位時間	120 単位時間		
			1,920 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		36人	0人	3人	26人	29人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)			
(概要) 授業計画(シラバス)の作成過程及び公表について 12月～次年度授業計画の策定 1月～担当教員への授業計画(シラバス)作成依頼 ・授業計画(シラバス)テンプレート配布 ・授業計画(シラバス)ガイドライン配布 2月～授業計画(シラバス)回収・チェック 3月～授業計画(シラバス)訂正・公表準備 4月～授業計画(シラバス)公表			
成績評価の基準・方法			
(概要) 成績表は、科目ごと4段階評語(優・良・可・不可)、素点(0～100点)による評価で表す。不可および59点以下は不合格となり、単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均値を成績評価指標とする。 成績証明書は、4段階評価の評語で表示される。			
評語	素点	意味	ポイント
優	80～100点	到達目標をほぼ達成している。	4
良	70～79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2
可	60～69点	到達目標の最低限は満たしている。	1
不可	0～59点	到達目標を充足していない。	0
成績評価指数= (4×優の科目数) + (2×良の科目数) + (1×可の科目数) ÷ 科目数			
卒業・進級の認定基準			
(概要) 本校を卒業する人材は、学則にある「教育基本法に則り、学校教育法に従い、服装並びにデザイン業務に関する知識・技能を授けるとともに一般教養を高め、有能な職業人、社会人を育成する」ことが教育目的であり、学科ごとの専門教育を学習し、以下の能力等を有している。 ■専門分野についての基本的な技術・知識を有し、社会のその分野の中で活用することができる。 ■キャリア教育等の基本的なスキルを身につけている。 ■社会人基礎力を身につけている。 また、以下の条件を満たしていなければならない。			

<p>■必須科目の成績評価に不可が無いこと。</p> <p>■年間出席時限数が年間消化時間の85%以上であること。</p> <p>■学納金が未納でないこと。</p> <p>本校のディプロマポリシーに基づき、各学科のディプロマポリシーを設定する。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別指導の実施</li> <li>・補習、再テスト等の実施による習熟度向上対策の実施</li> </ul>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
11人 (100%)	0人 (0%)	11人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) フローリスト、ブライダルフラワープランナー、フラワーデザイナー、 フラワースタイリスト、グリーンアドバイザー、園芸福祉士等			
(就職指導内容) ・それぞれの適正を見極め、企業とのマッチングを行う。 ・身だしなみ講座実施、面接指導、履歴書指導、インターンシップのフォロー			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・フラワー装飾技能検定 ・ブライダルフラワープランナー検定 ・AFT 色彩能力検定 2 級、3 級 ・販売士検定 ・サービス接客検定			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
34人	1人	2.9%
(中途退学の主な理由) 病気療養のため		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・休んだ当日に本人もしくは自宅に連絡し、状況を把握する。 ・日頃からの声掛け、定期的な面談を行い、学生の変化の早期発見に努めている。		

## ②学校単位の情報

### a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
ファッションビジネス科	220,000 円	890,000 円	円	
ファッションデザイン科	220,000 円	890,000 円	円	
ブライダル・ビューティー科	220,000 円	890,000 円	円	
グラフィックデザイン科	220,000 円	960,000 円	円	
プロダクトデザイン科	220,000 円	960,000 円	円	
インテリアデザイン科	220,000 円	960,000 円	円	
フラワーデザイン科	220,000 円	890,000 円	円	
修学支援 (任意記載事項)				
本校では人物、学力に優れ、他の模範となるであろうと認められる者に対し、学費を優遇する特待生制度がある。本校の行う特待生入試の試験結果に基づき特待生・準特待生A・準特待生B・準特待生Cを認定する。				

### b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://www.sdc.ac.jp/school_info/public">https://www.sdc.ac.jp/school_info/public</a>		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自校の教育活動や自己評価結果について、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、学校運営の改善、教育力の向上に資することを目的とする。</li> <li>・定例の学校関係者評価委員会を開催。学内委員より自己評価結果及び改善策を説明し、学外委員の評価を受けた後、結果を取りまとめて公表する。</li> <li>・主な評価項目 (1)教育理念・目標 (2)教育活動 (3)教育成果 (4)学生支援 (5)教育環境 (6)学生の募集と受入れ (7)教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守 (8)社会貢献・地域貢献、国際交流</li> <li>・評価委員会の構成 定員：6名 (企業：3名 卒業生：1名 保護者：1名 地域住民：1名)</li> <li>・評価結果の活用方法 評価結果について、校長 (責任者) を中心とした運営委員会で改善方策を検討し、可能な範囲で可能な限り早期に改善を実施する。</li> </ul>		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
静岡デザイン専門学校 後援会	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	保護者
柴田千枝美デザイン事務所	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	卒業生
株式会社大丸松坂屋百貨店	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	関係業界

株式会社フローラ 45 小林岩夫生花店	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	関係業界
株式会社加減乗除	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	関係業界
伝馬町発展会	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日	近隣住民
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://www.sdc.ac.jp/school_info/public">https://www.sdc.ac.jp/school_info/public</a>		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://www.sdc.ac.jp/school_info/public">https://www.sdc.ac.jp/school_info/public</a>
--

## 7. 様式第2号の4 (別紙)

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	静岡デザイン専門学校
設置者名	学校法人 静岡理工科大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		61人	56人	62人
内 訳	第Ⅰ区分	34人	32人	
	第Ⅱ区分	19人	17人	
	第Ⅲ区分	-人	-人	
家計急変による支援対象者（年間）				-人
合計（年間）				63人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	-人
3月以上の停学	0人
年間計	-人

(備考)
------

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
		年間	前半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	0人	0人	0人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。